

篠中だより 2月号



校訓「智」「想」「誇」

一人ひとりの自己実現(かなえる)に向けて

自律

自分で考え、よりよく判断し、行動できる人

令和7年2月28日
篠栗町立篠栗中学校
校長 早川 昌吾
生徒数 630名
1年生 192名
2年生 229名
3年生 209名

一月は行く、二月は逃げる、三月は去る

この時期は、自分を振り返り、次のステップへの準備期間です！

毎年感じるのですが、新年が明けてからの時間はあっという間に過ぎていきます。「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」という言葉がよく頭に浮かぶ時期になりました。

卒業を迎える3年生の皆さんへ

3年生は、入試における最後の追い込み時期です。ストレスと闘いながらラストスパートといった感じでしょう。ほとんどの人が、3月5日の公立一般入試で受験シーズンを終えることとなります。その後、息つく暇もなく3月7日に『卒業式』を迎えます。



この時期を「人生」という視点でとらえたら、高速エレベーターに乗って外の風景を見ている時のような気がします。地上から見た風景が、あっという間に遠くまで見えるようになり、自分の置かれている状況が、あっという間に広がっていく。そんな感じではないでしょうか。具体的には、受験や就職試験関連で町外に出る機会が増えたり、4月からは、高校や就職先での人間関係も一気に広がっていき

ます。SNSでのつながりとは違うリアルな世界での広がりです。今まで見たことも聞いたこともないような考え方に触れて、驚いたり、「ちょっとついていけないな」と思ったりと、心が揺れ動く人は多いのではないのでしょうか。



「広がり」を実感できる米の山からの展望

こんな時だからこそ、大切にしてほしい心構えがあります。それは、「周りはどうあれ、自分で考え、自分で決めて、自分らしく行動する」ということです。そうです。『自律』です。その中でも特に、『自分で考える』ということが大切だと思います。先に述べたような、今まで見たことも聞いたこともないような考え方に触れた時、そのまま受け入れたり、従ったりするのではなく、自分の頭と心でしっかりと考えること。そして、自分らしく判断し、行動・表現することです。それは「人のせいにはせず、自分の言葉や行動に責任を持つ」ということにつながります。3年生の皆さん、大変な時期とは思いますが、『自律』できる、という大きな目標に向かって成長できるチャンスととらえ、取り組んでいってください。

～マーガレット・サッチャー（元英国首相）の言葉～

考えは言葉となり、言葉は行動となり、行動は習慣となり、習慣は人格となり、人格は運命となる。

せとっ子まつりで 小中連携・地域貢献 がんばりました！

1月26日（日）2年生は修学旅行から帰ってきたばかりでしたが、勢門小校区フェスタ「せとっ子まつり」にボランティアとしてお手伝いしたり、ステージ発表に参加したりと本校生徒の出番が多く、よく頑張ってくれていました。司会を新生徒会役員が受け持ち軽妙なトークで場を和ませ、受付係などボランティアで参加した生徒は笑顔で来場者を迎えるなど、しっかりと貢献することができていたようです。ステージ発表では、吹奏楽部、太鼓部がそれぞれ任せられたステージを一生懸命に盛り上げていました。



学校の「自己評価」を基に次年度の方向性を検討しました ～職員アンケート結果から～

学校の今年度の取組の成果と課題を検討し、次年度に向けての方針や重点を置くべき内容について先生たちで話し合いました。

各教科の指導において、また、道徳や学活などの各領域において学校としてそろえたかったこと（共通実践）。その達成度について先生たちに自己評価してもらった結果をお伝えします。



「教科指導」における達成度		達成度
項目1	これまでの学びを整理し、理解できる「共有の課題」を設定	73%
項目2	教科の本質に迫る「見方・考え方」を意識し、共同して解決する「ジャンプの課題」の設定	65%
項目3	各教科において、個人→共同解決→個人 を意識した授業	70%
項目4	意図的指名やトーク活動を取り入れ、多くの生徒が考えを表出する学習過程の工夫	68%
項目5	授業において、生徒が「わからない」と相談できる集団や雰囲気づくり	80%
項目6	ICTを活用して、「学習の個性化」と「協働的な学び」の両立	60%
項目7	自分の変容を認識したり、学んだことを次に活かそうとしたりするための振り返りの設定	73%
項目8	生徒指導の3機能（共感的人間関係、自己存在感、自己決定・自己選択）を生かした授業づくり	75%
項目9	人権が尊重される学習活動づくり	75%
「領域（道徳・学活・総合）」指導における達成度		達成度
項目10	特別活動で行った人間関係プログラムやリレーション活動の充実	75%
項目11	各学年で道徳の各内容項目を計画的に実施とチームによる指導の充実	83%
項目12	各種学校行事・学年行事の体験的な活動を通して、生徒リーダーを中心に据えた活動を計画的に実施	75%
項目13	平和や周りへの配慮について考えることができる人権教育を実施できましたか。	80%
項目14	人間関係の基礎となる「あいさつ」や、心を磨く「黙動掃除」等、篠中5ヶ条を意識して自ら率先垂範	80%

項目1～項目7については、篠栗町全体で進めている「学びの共同学習」の充実度についての自己評価です。「学びの共同学習」は、「誰ひとりとして置き去りにしない」という理念の元、一人ではなかなか解決できない少し難問な課題である「ジャンプの課題」などを、仲間と共同しながら「わからない」を大切に学ぶ学び方です。文部科学省が示している「主体的・対話的で深い学び」ならびに「個別最適な学びと協働的な学びの両立」の実現に向けた具体的手立てとして本校で特に力を入れているものです。



また、項目8～項目9、そして「領域」の指導における項目10～項目14においては、教科指導で重視している「わからない」を大切にすることができる「温かい人間関係づくり」そして「集団づくり」に関する項目の充実度における自己評価です。

これらの先生たちの自己評価や生徒の皆さんに取っている学習アンケート・生活アンケートの結果を分析し、今後の篠栗中における教育の方向性、「力を注いでいく（重点項目）内容」について職員会議において以下の通り確認しました。生徒・保護者の皆さんや地域の方々ともめざす方向が共有でき、さらに充実した教育活動が展開できるよう頑張っていきたいと思っています。



「今後の篠栗中が力を注いでいく（重点項目）内容」

【教科指導】

- 教科の本質にせまる課題設定や発問・追発問を研究し、身に付けさせる資質・能力及び見方・考え方を今後も研究していく。
- 教員のファシリテーション能力を高め、もっと生徒の意見を引き出せるようにしたい。
- 「自分の課題を自分たちで見つけ、自分で解決する」を目標としてICT活用を充実させる。

【生徒指導等】

- 人間関係プログラムやリレーション活動の振り返りを集団の中で意識できるようにしたい。
- 日常的に他人を尊重する行動を意識し、全ての教育活動で「正対」を定着させる。
- SEL、GWTで学んだことを日常の生活や授業で行っていく。



【組織運営等】

- 担任ローテーション等の意図的な取組がよかった。学級格差、OJT等の課題を克服していきたい。
- 整理整頓について「相手意識」をもたせて取り組ませる。生徒自身が環境を整えられるような仕組みをつくりたい。